



102

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年4月17日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



福島と向き合う お笑い芸人、カンニング竹山さん

4月17日(日)=1、3面



お笑い芸人のカンニング竹山さん＝写真＝は、東日本大震災後、何度も福島を訪れています。

ボランティアではなく、目的は観光。最初は震災から数カ月たったある日、取材で福島入りしました。東京電力福島第1原発事故の影響の大きさに驚き、長期にわたって地元と触れあう必要があると思ったそうです。そして、自分になにができるの

かを考えました。答えは「日帰りぶらり旅」でした。おいしい地元料理を食べ、住民らと会話を重ねていきました。時間がたつにつれ地元での友達も増え、お酒を飲みながら「復興とは何だ?」といった議論も重ねてきました。

池上彰さんと、福島の魅力や「これから」について語り合いました。

そこが聞きたい「3兆円超の除染マネーは適正か」

4月19日(火)=オピニオン面

東京電力福島第1原発事故から11年が経過しました。

放出された放射性物質を取り除くため表土を削り取り、枝葉や落ち葉を取り除き、建物表面を洗浄する除染とはどんな事業だったのか。2020

年度までにかかった除染費用3兆2135億円は適正と言えるのか。

環境省福島環境再生事務所(現・福島地方環境事務所)の初代所長を務めた大村卓氏＝写真＝に話を聞きました。



シュプリング・ネイチャー提供



ウクライナ侵攻の影響は

ネイチャー・エナジー編集長に聞く

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、ロシア産の化石燃料依存から脱却しようという動きが急速に進んでいます。ただし、「脱ロシア」を進める過程で、

天然ガスから二酸化炭素排出量の多い石炭に回帰することへの懸念もあります。世界の脱炭素の潮流に影響はあられるのでしょうか。環境・エネルギー

特集ワイド 前ソフトバンク監督 工藤さんが語る「学び」

4月19日(火)=夕刊特集ワイド



春は新たな「学び」が始まる季節。プロ野球・ソフトバンクの監督を昨年で退いた工藤公康さん＝写真＝はこの春、筑波大学院の博士課程に進みました。研究テーマは野球選手の「故障予防」。

野球人口が減る中、子供たちがけがなくプレーできる環境を整えたいと言います。

工藤さんは、学びや成長の機会には若者だけに与えられるものではないことを伝えています。

新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年

「記事すご」で紹介していきたいです。よろしくお願ひ致します。(都築葵)

4月に営業現場から異動してきました。人がかわれば新しい風が吹きますが、紙面でも新連載が始まっています。その一つ「部活クワイシス」は、教員の働き方改革や保護者の悩みなどさまざまな角度から「部活の当たり前」にフォーカス。「先生も苦悩していたのかも」と昔の部活の顧問を思い出しながら読みました。今後もうこうした考えさせてくれる記事を「記事すご」で紹介していきたいです。よろしくお願ひ致します。(都築葵)



4月19日(火) 科学面

分野に特化し、世界中の論文を掲載している英科学誌「ネイチャー・エナジー」のニッキー・デイーン編集長に「写真」に聞きました。